



後ろ向きに 全速力で走る？

校長 富山 隆

数年前のサブプライムローンの破綻、デリバティブの取引はたとえて言えば、全速力で後ろ向きに走っているようなもので、過ぎ去っていく後方の景色はきれいに見え、それらはすべてうまく説明ができませんが、これから先何が起るのか本当はわからないのです。と語る副島孝彦氏の言葉は、今の教育改革を暗示しているようにみえます。

国力は教育力とのスローガンによく表れていますが、グローバル化が進む中でも、日本が世界のリーダーとしての座を保ち続けるために必要なスキルを身につけた人材を育成するのが、この教育改革の眼目であり、人間を生産のための資本（人材）ではなく、利潤の獲得のための資本（道具）とみなしているように思えるからです。

ご案内のように、今年の四月に入学する中学一年生が大学入試を迎える二〇二〇年には、現在のセンター試験の廃止と達成度テストの新設が政策提案されています。これは、高校教育の改革、大学入学者選抜の改善・大学教育の改革のセットとなっています。改革スケジュールは次の通りで

す。高校教育改革は、一七年度に学習指導要領の改訂の告示をし、二年度に向けて教科書の作成・検定等を行います。二二年度より導入となります。また、仮称高等学校基礎学力テストは、詳細な制度設計の上、一七年度にプレテストの実施、一九年度に新テスト導入、二二年度に新学習指導要領対応となります。入学者選抜の改善は、二通りあり、仮称大学入学者希望者学力評価テストは、一七年度からプレテストの実施・結果反映作業を経て、二〇年度に導入します。個別大学選抜は、各大学のアドミッションポリシーに基づいて、入学者希望者の多様な能力を多面的に評価する選抜への転換を求められ、早ければ二六年度から随時実施となっています。大学教育の改革は、その質的変換・入学後の進路変更の柔軟化・学生の学修成果の把握・評価の推進等が、予算への支援で促進されています。

併せて、初等中等教育政策の動向としては九項目が挙げられ、次期学習指導要領、道徳の教科化、主に英語教育におけるグローバル人材育成、いじめ対策の推進、フリースクール等多様な学びへの支援や不登校対策の推進、全国で約千校が予定される小中一貫校の制度化、高大接続・入学者選抜の改革、教員の資質能力の向上、教科書改革の推進で、これらのほとんどが一六年度には具体的な形となるように設計されています。

本校においては対応は現行カリキュラムの改善にも手をつける二方で行います。香柏会より施設整備を目的にいただいたご援助は、次年度の、生徒用・教師用タブレットの導入に用いさせていただきます。台数に限りはありませんが、教科教育だけでなくメディアリテラシー教育にも活用していきたいと存じます。ありがとうございます。

また、英語に関しては、YMC Aと協力して、話す・聞く・読む・書くの四技能を有機的につなげる「Global Wings」と名づけた放課後講座を、次年度より希望者対象に有料で開設し、英検等の上級合格を目指します。

さて、一五年度から二〇年度のみならず、余波のある二三年度にかけて中学校・高等学校で学ぶ生徒達は、ただでさえ不安定な思春期の疾風怒濤のような教育改革の嵐の中で過ごさざるを得ません。目指すことが見いだせないままの生活はどのような人間を育てるのでしょうか。

昨今は、私学間のみならず公立校とも競争的環境が激化しています。「勝敗」をはかる物差しは、合格力向上を目的とし、著名大